

瀬戸大橋記念公園施設長寿命化計画

(概要版)

令和 7 年 4 月

香川県 交流推進部 交流推進課

【様式 0】

1. 都市公園整備状況

(令和 7 年 1 月末時点)

管理対象都市公園の数	管理対象都市公園の面積	一人当たり都市公園面積
1	22.5ha	0.25 m ²

※香川県人口 917,058 人(令和 6 年 10 月 1 日現在)

2. 計画期間〔2025 年度(令和 7 年度) ～ 2034 年度(令和 16 年度) (10 箇年)〕

3. 計画対象公園(対象都市公園)

① 種別別箇所数(種類別公園数)

街区公園	近隣公園	地区公園	総合公園	運動公園	広域公園	特殊公園	緩衝緑地	都市緑地	合計
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

② 選定理由

香川県交流推進部が管理する都市公園のうち、平成 28 年 3 月に公園施設長寿命化計画を策定して以降、特に老朽化が顕著であった瀬戸大橋記念公園について、長寿命化計画を早急に見直し策定する必要がある。

4. 計画対象公園施設

① 対象公園施設数

園路広場	修景施設	休養施設	遊戯施設	運動施設	教養施設	便益施設
50	20	41	17	8	20	22

管理施設	災害応急対策施設	その他	合計
320	0	23	521

② これまでの維持管理状況

・瀬戸大橋記念公園は、指定管理者である公益財団法人瀬戸大橋記念公園管理協会により、日常管理が行われており、改築・改修については県が行っている。

③ 選定理由

対象とした都市公園の全公園施設を対象とした。

5. 健全度を把握するための点検調査結果の概要

点検調査時期：2024年度(令和6年度)
点検調査方法：瀬戸大橋記念公園を対象として予備調査および健全度調査を実施した。

始めに全公園施設を対象とした予備調査を行い、公園台帳や過年度報告書に記載される施設種類および施設数を確認し、現地と整合した施設リストを作成した。

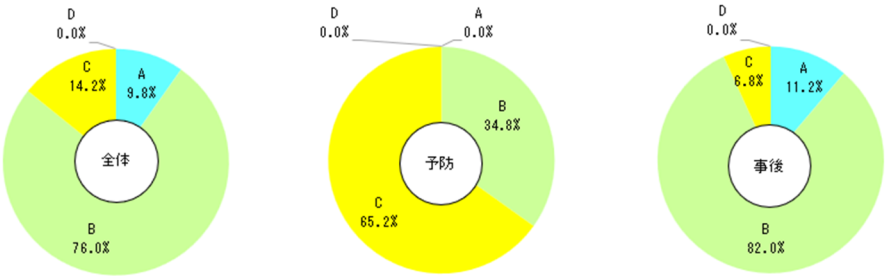
健全度調査では、公園施設長寿命化計画策定指針(案)【改定版】と県の管理方針を踏まえて、事前に健全度調査を行う予防保全型管理候補施設を抽出して調査を実施した。健全度調査の実施に当たっては、下記の専門技術者により点検を行った。

- ①土木・造園施工管理技士等による一般施設の健全度調査
- ②公園施設製品整備技士等の専門技術者による「遊具の安全に関する規準 JPFA-S 2024」に基づいた調査
- ③建築士による建築物の調査

点検結果概要：健全度判定の結果は次のとおりである。

■健全度調査結果区分ごとの施設数（公園全体）

健全度	全体	予保全型	
		予防保全型	事後保全型
A	51	0	51
B	396	23	373
C	74	43	31
D	0	0	0
合計	521	66	455



6. 対策の優先順位の考え方

対策の優先順位は、健全度判定および施設重要度から緊急度を設定(高・中・低の3段階)し、これに基づくこととした。

健全度判定 D の施設は緊急度高に分類するが、瀬戸大橋記念公園内の公園施設では健全度判定 D の施設はなかった。

健全度判定 C の施設については、考慮すべき事項により緊急度高、中に分類した。機能停止した場合、公園機能の維持に支障があるなど公園全体に多大な影響がある施設や、機能停止した場合、公園利用者に多大な影響がある施設(有料で利用することができる施設や利用者ニーズが高い施設など)といった点を考慮し、これらに該当する場合は緊急度高に分類し、該当しない場合は緊急度中に分類した。

健全度判定 A、B の施設については、緊急度低に分類した。

■ 緊急度設定結果(予防保全+事後保全)

	健全度・緊急度				
健全度	A	B	C	D	計
緊急度	低		中	高	
瀬戸大橋記念公園	447		60	14	521

7. 対策内容と実施時期

①日常的な維持管理に関する基本的方針

指定管理者による管理体制の維持	… 年間
遊具を対象とした職員による巡回点検と専門技術者による詳細点検	… 年 1 回
専門業者に委託した特殊施設の詳細点検	… 適宜

②公園施設の長寿命化のための基本方針

【予防保全型管理候補施設】

- 劣化や損傷が進み、緊急度を「高」や「中」と設定した公園施設に対する長寿命化のための補修、もしくは更新を行う。
- 「健全度(劣化)ランク B」以上を維持することを目標とする。
- 予防保全型管理として、公園施設の日常的な維持保全に加え、日常点検、定期点検の場を活用した定期的な健全度調査を行う。
- 毎年の法令点検等を行う設備以外の公園施設については、5年に1回以上の健全度調査を実施し、施設の劣化損傷状況を確認する。

【事後保全型管理候補施設】

- ・ 健全度調査を実施しないため、維持保全（清掃・保守・修繕）と日常点検で公園施設の機能の保全と安全性を維持する。
- ・ 日常点検で施設の劣化や損傷を把握した場合、施設の更新を行う（基本的に使用見込み期間での更新は行わず、健全度（劣化）判定「D」の手前で更新を検討する）。

8. 追加要件に関するとりくみ

【再編・集約化】

- ・ 今回の計画の対象としている公園は瀬戸大橋記念公園のみであり、公園自体の再編、集約を行うことはできない。
- ・ 一方、公園内に設置されている公園施設については、維持管理コスト縮減のため、公園の利用状況や施設の更新時期等を踏まえ、施設数の見直しや適正配置などの取組みが考えられる。
- ・ 今回の計画期間における 10 年間で、複数の施設の更新等が考えられることから、維持管理コスト縮減を念頭に置いた取組みが重要である。

【新技術等の活用】

- ・ 点検の効率化や高度化を計画期間の 10 年間でさらに進める必要がある。一般的にはドローンや 3D レーザースキャナ、遠赤外線等を点検等に導入することなどが考えられる。
- ・ 本公園の場合は、新技術の導入として以下が考えられる。

瀬戸大橋記念館の外壁調査

- ・ かつて建築物の外壁調査は、足場が必須でありコストが大きな課題であったが、近年は地上からの赤外線探査により浮きや亀裂などが比較的容易に観測することが可能となっている。しかし、瀬戸大橋記念公園は一般的なビル等と異なり複雑な形態であり、これら技術の導入が困難であったと推察される。
- ・ しかし、最近になって衝突防止センサーを完備したドローンによって赤外線調査が可能な技術が開発されており、今後はこれら新技術の導入によりコスト縮減と点検の高度化を図ることが考えられる。



複雑な形態の瀬戸大橋記念館



ドローンによる赤外線外壁調査を行うメリットは主に6つです。

- ✓ 点検費用を大幅に削減できる
- ✓ 短時間で調査を行える
- ✓ 安全性が高い
- ✓ 建築基準法第12条の定期調査にも対応している
- ✓ 点検結果を記録できる
- ✓ 大規模修繕時には正確な見取りが出来る

赤外線調査のドローン事例

9. 都市公園別の健全度調査結果、長寿命化に向けた具体的対策、対策内容・時期等

健全度調査結果は5に記載のとおりである。

長寿命化に向けた具体的対策については、緊急度「高」の施設は、撤去更新もしくは修繕する。緊急度「中」の施設は、対策が必要な施設を選定し、健全化対策として撤去更新もしくは修繕をする。予防保全型管理施設について、補修をする。

対策内容・時期については、利用者への影響が大きい瀬戸大橋記念公園記念館の空調設備、電気設備、外壁等の更新、改修を優先的に取り組むこととし、2025 年(R7)度に設計、2026 年(R8)度に工事を想定する。また、大型遊具の老朽化が進んでいることから更新工事を想定する。2026 年(R8)と2027 年(R9)に予算が集中するが、2028 年(R10)以降は、健全度調査結果等を踏まえ、適宜対応する。

10. 計画全体の長寿命化対策の実施効果

公園施設のうち一般施設については、健全度調査の結果から判断し、適切な更新や補修を計画した。

ライフサイクル縮減効果に応じた管理類型に分類することで『9,813 千円』の縮減効果(単年度あたり)が見込まれる。

また、重要度と緊急度が高いものについては急を要するが、出来る限り費用が単年に集中しないよう更新と補修時期を分散することで、財政面の平準化を図る計画を作成した。